

第1学年3組 生活科指導案

指導者 三浦市立初声小学校 望月 賢治 (印略)

- 1、日時 平成29年11月30日(木) 5時間目
- 2、単元名 「うみはかせになろう」～うみのかくれんぼ～
- 3、地域 三浦市初声町和田 矢作海岸
- 4、情報源
- ・21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン(小学校編)
 - ・アースシステム教育アイデアカード(五島政一氏の実践より)
 - ・平成26年度三浦市立初声小学校生活科学習指導案「うみはかせになろう」(藤田健太郎教諭の実践より)
 - ・三浦市立初声小学校辻功教諭による、矢作海岸フィールドワーク
 - ・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校生活)(国立教育政策研究所)

5、単元目標

- 砂浜や磯の生き物を見つけたり観察したりすることを通して、海に親しみを持つことができる。
- 身近にある物を使って、遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができる。

海洋教育A(1)ア「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン(小学校編)」

砂浜や磯の生き物を見つけたり観察したりすること。

生活2内容(6)「学習指導要領(生活科)」

身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

6、評価規準

海洋教育A(1)ア

砂浜や磯の生き物を見つけたり観察したりすることを通して、海に親しみを持つことができる。

生活2内容（6）

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
・身近にある物を使って、遊びに使う物を工夫してつくり、みんなで遊びを楽しもうとしている。	・身近にある物を使って、遊びに使う物を工夫してつくり、みんなで遊びを楽しむことができる。	・身近にある物を使って、遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付くことができる。

7、単元の考察

本校の周辺には、学区内に矢作海岸、長浜海岸、三戸海岸などの海岸があり、磯遊びや海水浴、釣りなど、海に親しむことのできる環境が多くある。例年、夏休みに行われる「海洋教育写真コンテスト」の作品を鑑賞していると、三浦の豊かな海や生き物の様子、シーカヤックなどのレジャーを楽しんでいる様子が生き生きと撮られ、改めて素晴らしい環境下に三浦市があることを実感させられる。しかし、本校では、児童によって海に関わる機会に差があり、授業でも海洋教育があまり開発されていない実態がある。

しかし、そのような中、3年前本校の藤田健太郎教諭が、1年生生活科「うみはかせになろう」の教材を開発し、今年度まで本校の1年生は、嬉々として矢作海岸の生き物と触れ合う経験を積むことができている。そのため、本校の海洋教育で目指す身につけさせた力（P10 参照）を、より系統的に育んでいくことができるよう、今回、1、2年生の生活科で「うみはかせになろう」の続編を開発し、提案したいと考えた。

海洋教育における本校の「持続可能な社会の形成者としての、資質、能力、態度を養う」といった目標を達成するために、低学年において海に親しむ活動を多く取り入れ、自分たちの地域の海に、まずは親しみや愛着の持てるような授業を展開していきたい。

【 単元の考察の要点 】

・新しい単元を開発する上で、「アースシステム教育アイデアカード」を基に、大局的な見地から、本校独自の海洋教育の着想を得られるよう活用した。（P4 参照）

・「持続可能な社会の形成者としての、資質、能力、態度を養う」ために、「海に親しむ」「海を知る」「海を利用する」「海を守る」の4つを機軸とし、6年間を通して系統的に授業を展開していく視点を持つことが大切であると考えた。そのため、今年度本校の海洋教育の実践を4つの活動に分類した表を作成した。（P5（2）参照）

・「うみはかせになろう」の単元名を統一し、副題を少し変えることで系統性を持たせた。

1年生 7月 「うみはかせになろう」（知る） ←平成26年度藤田健太郎教諭の実践

1年生 10月 「うみはかせになろう」～うみのかくれんぼ～（遊ぶ）

2年生 11月 「うみはかせになろう」～はっせ水ぞくかんをつくろう～（育てる）

←今回の単元

・12月2日の土曜参観での発表を目標に、1、2年生の各クラスで生活科の交流授業を3回行うことで、1、2年生の間での見通しと振り返りの持てる場を設定した。

・3回の発表の組み合わせ

11月4週目 リハーサル 1-1と2-3、1-2と2-1、1-3と2-2

11月5週目 発表(本時) 1-1と2-2、1-2と2-3、1-3と2-1

12月2日 発表(土曜参観) 1-1と2-1、1-2と2-2、1-3と2-3

・発表の内容は、1、2年生の生活科で、学区内にある杢形公園や学校内での植物に関連したものと、矢作海岸での自然や海の生き物に関連したものを併せ、三浦の陸と海の自然に親しみを持てるものとした。

・3年生以降の理科においても、昆虫や植物の飼育や観察の学習があるので、その意欲をより高めることができるように、1、2年生の生活科においては、ゆとりのある授業時数の中で、自然に楽しく親しむ授業を行うようにした。

・今回の1年生の生活科「うみはかせになろう」～うみのかくれんぼ～では、国語の教科書(光村図書)に出てくる「うみのかくれんぼ」の話と関連させた。国語の教科書にある「うみのかくれんぼ」では、貝やカニなどの海の生き物が、どこにどのように隠れているのかという説明文が書かれていたため、その学習終了後、「では、矢作海岸にはどのような生き物が隠れているのかな?」という形で、一学期の「うみはかせになろう」の学習(矢作海岸での生き物探しと分類)を想起させながら、生活科に関連させていった。

・図工の時間を活用して、矢作海岸のジオラマづくりを行った。海の生き物は紙粘土でつくり、「矢作海岸釣りゲーム」として生活科に関連させた。

・矢作海岸では、潮が引く際に潮だまりができ、そこに多様な生き物が生息するという特徴がある。潮だまりにいる生き物は、一日のうちに磯の状態が大きく変わるという過酷な環境下でも生息することができるため、逆に捉えるとある程度条件を整えれば低学年でも飼育することができるのではないかと考えた。(辻功教諭によるフィードバックからの提案)

・2年生の生活科「うみはかせになろう」～はっせ水ぞくかんをつくらう～では、矢作海岸の岩や砂などを使って、水槽内にジオラマをつくった。また、餌やり体験やルーペでの観察、タッチプール等の体験活動を行っていく。

・海の生き物を飼育する上での専門的なことを学ぶため、観音崎自然博物館の河野えり子館長と山田和彦学芸部長を講師として招聘し、矢作海岸での校外学習を2回行った。

・2年生前の廊下に水槽を展示し、海洋教育図書コーナーも併設した。

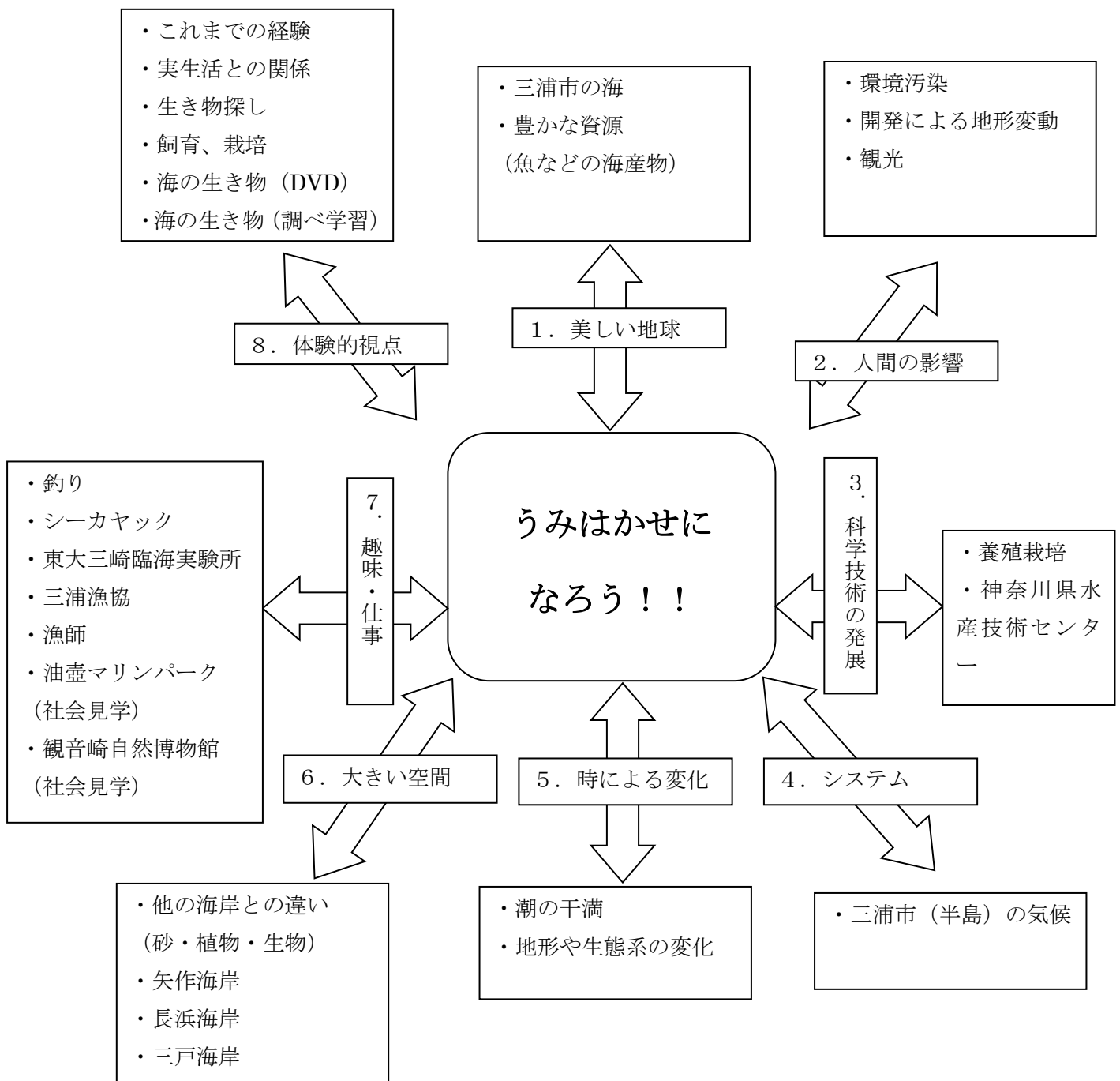
・三浦市の小中学校では、海洋教育関連の教具が近年充実しつつあるため、積極的に活用していきたい。※アクアスコープ、観察用水槽、双眼実体顕微鏡、マリンソルト など

・三浦市の海洋教育のホームページ上に、『三浦の子どもたちにとって、「海について学ぶ」ことは、三浦の自然、歴史、文化、産業など、「地域の総合的・発展的な学び」となり、「郷土を愛し誇りをもつ、子どもの育成」につながると考えています。』と記載されている。

低学年の段階から教科横断的な視点を持たせていくことは、それらの目標を達成していくことに資すると考え、今回の生活科では、国語、図工、音楽、学活を関連させ、総合的な課題解決学習の単元を開発することとした。

8、単元構想

(1) アースシステム教育



【 矢作海岸の特徴 】

・岩場が多い ・潮の干満→潮だまり ・多様な生き物が生息 (ヒライソガニ、イソガニ、イワガニ、イソスジエビ、ニホンヤドカリ、アゴハゼ、ミズクラゲ、クモヒトデ、テングサ、アサリ、マツバガイ、イシダタミ、スガイ、ウミニナ など)



(2) 平成 29 年度初声小学校海洋教育

	A 海に親しむ	B 海を知る	C 海を利用する	D 海を守る
一 年	遠足「長浜海岸」	うみはかせになろう（知る） 矢作海岸の生き物を調べ、分類する。		
	うみはかせになろう（遊ぶ） 矢作海岸のジオラマや釣り堀をつくる。	社会見学「マリンパーク」		
二 年	遠足「長浜海岸」			
	うみはかせになろう（育てる） 矢作海岸の生き物を育てる。			
三 年	遠足「三戸海岸」	社会見学「観音崎自然博物館」	社会見学「魚市場」「冷凍庫」	
四 年		社会「上下水道の学習」	キャバツの栽培 ※潮風の利用	
五 年	キャンプ三浦ふれあいの村 「砂の造形」		キャンプ三浦ふれあいの村 「シーカヤック」	社会「日本の水産業」 社会「アマモの種付け体験」
六 年	遠足「長浜海岸」	社会「歴史と海」		国語「海の命」

(3) 指導計画（全 1 2 時間扱い）

- ・国語、図工、音楽、学活、生活「たからものであそぼう」の単元と関連するものは、「○学習活動・内容」のみで記載する。「※」の箇所。

次	時	○学習活動・内容	・留意点	☆評価規準及び評価方法
一	1	<p>※国語「うみのかくれんぼ」の学習で、何の生き物がどこでどのようにかくれんぼをしているのかを確認する。</p> <p>○矢作海岸の磯に、何の生き物がどこでどのようにかくれんぼしていたのかを想起する。</p> <p>・岩の下、砂の上、砂の中、潮だまり等。</p>	<p>・1学期の「うみはかせになろう」で、記録しておいた写真を活用する。</p> <p>・1学期の「うみはかせになろう」では、海の生き物を見つけ分類したが、今回は、海の生き物がどこでどのようにかくれんぼしているのかを中心に観察していくことを確認する。</p>	
	2	○矢作海岸校外学習。		
	3	・事前にワークシートを配布し校外学習のねらいを確認する。学校に戻ってきたら記載する。（P11 参照）		

	<p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p>	<p>・矢作海岸では、海の生き物を観察しながら潮だまりに集め、タッチプールをつくる。</p> <p>・最後、生き物を元の場所に戻す。</p> <p>○ワークシートにまとめる。</p> <p>※国語「うみのかくれんぼ」…矢作海岸には、何の生き物がどこでどのようにかくれんぼしていたのかを話し合う。</p> <p>○「矢作海岸づくり」</p> <p>※図工でも並行して行う。</p> <p>○「海の生き物づくり」</p> <p>※図工でも並行して行う。</p>	<p>・タッチプールは、9月の社会見学「京急油壺マリンパーク」での体験を参考にする。</p> <p>・写真も活用する。</p> <p>・矢作海岸での校外学習の感想を記録し、今後ゲームランドを構想していく上で活用できるようにする。</p> <p>・矢作海岸の写真を活用しながら、岩(穴も含む)、砂、苔、潮だまりの様子などを再現し、矢作海岸のジオラマを完成させていく。</p> <p>・紙粘土で海の矢作海岸の生き物を再現する。写真を活用し、生き物の色を確認し、紙粘土に絵の具を混ぜ表現する。</p>	<p>☆砂浜や磯の生き物を見つけたり観察したりすることを通して、海に親しみを持つことができる。</p> <p>(観察・ワークシート)</p> <p>☆【関・思・気】身近にある物を使って、遊びに使う物を工夫してつくることができる。</p> <p>(観察・作品)</p> <p>☆【関・思・気】身近にある物を使って、遊びに使う物を工夫してつくることができる。</p> <p>(観察・作品)</p>
<p>二</p>		<p>※生活「たからものであそぼう」</p> <p>※学活「土曜参観での発表会に向けた、タイトル決め、グループ分け、司会等役割分担」</p> <p>【タイトル】「楽しい三浦の秋と海」</p> <p>【グループ】</p> <p>①矢作海岸釣りゲーム</p> <p>②秋のゲームコーナー</p> <p>③秋の洋服屋さん</p> <p>【役割分担】司会、はじめの言葉、寸劇、振り付け、ゲーム紹介</p> <p>※生活「グループ別準備」</p>	<p>・杳形公園で秋の落ち葉、枝、木の実などを拾い、おもちゃをつくる。</p> <p>・「秋の洋服屋さん」は、杳形公園で採集したものの他にも、学校の落ち葉、枝、木の実を使ったり、自宅付近の公園等で放課後等に集めておいたものを使ったりする。</p>	

			<ul style="list-style-type: none"> 各グループで、話し合いを進め、活動内容、役割分担、お客さんの動線等を決定していく。 	
三	<p>9 ※生活「クラス別準備」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループの紹介、活動の準備。 司会、はじめの言葉、寸劇、歌、振り付け、ゲーム紹介。 <p>※音楽「まっかな秋」等練習。</p> <p>○リハーサル</p> <p>10 ※生活「クラス別準備」</p> <p>○発表(本時)</p> <p>11 ※生活「クラス別準備」</p> <p>○発表（土曜参観）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスで、オリジナルのものを考える。（交流に来る2年生の各クラスが、1年生の各クラスの特徴を感じられるようにするため。） 第一回目の反省を受けて、準備を進める。 	<p>☆【関・思・気】</p> <p>身近にある物を使って、みんなで遊びを楽しむことができる。</p> <p>（観察）</p>	
四	<p>12 ○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の担当したものを中心に振り返る。 （ワークシート） 交流した2年生へのメッセージ（感想）も書く。 （ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生が飼育している生き物に、継続して興味を持ち、交流することができるよう声かけをする。 	<p>☆【気】</p> <p>身近にある物を使って、遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付くことができる。</p> <p>（ワークシート）</p>	

(4) 本時について (10 / 12)

1、本時のねらい 身近にある物を使って、みんなで遊びを楽しむ。

2、交流クラス 1-1と2-2、1-2と2-3、1-3と2-1

3、本時展開

分	○学習活動	・留意点 ☆評価規準
	1、2年生で、生活科の発表交流会をしましょう。	
0	○1年生から発表する。「楽しい三浦の秋と海」 ・はじめの言葉 ・寸劇、歌「まっかな秋」 ・各グループの紹介とルールの確認 ① 矢作海岸釣りゲーム ② 秋のゲームコーナー ③ 秋の洋服屋さん	☆【関・思・気】 身近にある物を使って、みんなで遊びを楽しむことができる。 (観察)
8	○1年生がお店屋さん、2年生がお客さんとして、交流する。	
18	○2年生に、感想を発表してもらおう。	・2年生の担任が、各グループのお気に入りについて聞く。
20	○移動、準備	
22	○2年生の発表をする。 「はっせ水ぞくかんをつくろう」 ○矢作海岸の飼っている生き物の体のつくり、海水の作り方、雄雌の見分け方、餌、寿命等を紹介する。	
30	○2年生がお店屋さん、1年生がお客さんとして、交流する。 ・餌やり体験やループでの観察、タッチプール等。	・生き物を触る前後には、必ず手を洗う。
40	○1年生に、感想を発表してもらおう。	・1年生の担任が、各グループのお気に入りについて聞く。
42	○移動、終了	

4、授業の視点

○身近にある自然や物を使って、みんなで遊びを楽しむことができていたか。

○1、2年生の海洋教育の発表は、海に親しみを持てるものであったか。

2年生・生活科「はっせ水ぞくかんをつくろう」 生き物の飼い方マニュアル（参考資料）

1、調べ学習のグループ分け

①魚グループ ②カニグループ ③ヤドカリグループ ④ウニ・貝・エビ

※専門性を高め、責任感を持って飼育するため。

2、水槽内で飼育する生き物のグループ分け

① 魚 ②カニ・ヤドカリ・貝 ③ウニ、エビ

※生き物同士、共存しやすいグループに分類した。

3、海の生き物を飼育するための準備物

・水槽 ・マリンソルト ・カルキ抜き ・エアポンプ ・エアポンプ用ホース
・ろ過フィルター ・網（汚れを取るため。水を換える際、生き物を傷つけずに移すため。）
・水槽用ふた（生き物が飛び出さないようにするため。） ・餌 ①魚（浮くもの…フレーク） ②カニ、ヤドカリ、貝（沈むもの…シラス、煮干し） ③ウニ（乾燥ワカメ、キャベツ） ④エビ（フレーク、コケ）

3、水の交換

・3、4日で濁るため、水槽の中の海水を半分交換する。
・水だけ蒸発するため、塩分濃度が高まる。そのため、はじめの水深の箇所に印をしておいたところまで、真水をつぎ足す。
・バクテリアがいるため、半分残しておく。

4、掃除

・水の交換と、ろ過フィルターの交換（使い捨て）で対応する。
・生き物の死骸を網ですくって取る。

5、その他

・生き物や水槽の水を触る前には、必ず手を洗う。
※手の汚れによって、生き物が死滅してしまう恐れがあるため。
・生き物や水槽の水を触った後にも、必ず手を洗う。
・水槽に日光を当てない。
※水質の悪化、水温の変化により、生き物が死滅してしまう恐れがあるため。

